

Ⅲ. 貴重な動植物種

私たちの身近な動植物には、急激に数を減らしている種があります。そこで加茂地区版レッドリストとして「貴重な動植物種」を調査結果に基づいて選定しました。

選定種数

分類群	絶滅	野生絶滅	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	情報不足	合計	在来種数に対する％
シダ植物	0	1	7	12	5	2	27	13.1
種子植物	0	0	21	22	44	8	95	7.8
哺乳類	0	0	0	0	3	3	6	15.6
鳥類	1	0	3	4	10	0	18	9.0
爬虫類	0	0	0	1	1	2	4	28.5
両生類	0	0	1	3	4	2	10	55.6
魚類	0	0	4	4	3	4	15	35.7
昆虫	0	0	10	10	19	9	48	1.4
淡水貝類	0	0	0	3	1	1	5	35.7
十脚甲殻類	0	0	0	0	1	0	1	25.0
合 計	1	1	46	59	91	31	229	4.5

主な選定種

絶滅 Regionally Extinct (RE)

加茂地区ではすでに絶滅したと考えられる種

トキ

新潟県では中国産を野生復帰しているが、加茂地区では絶滅したままである。



野生絶滅 Extinct in the Wild (EW)

加茂地区において飼育・栽培下でのみ存続している種

デンジソウ

かつては水田雑草とされるほどだったが、野生では絶滅した。



絶滅危惧Ⅰ類 Critically Endangered + Endangered (CR+EN)

加茂地区において絶滅の危機に瀕している種



ハナノキ



カワバタモロコ

他に植物はトキワシダ、ミズナラ、シデコブシなど、動物はヤマセミ、ニホンアカガエル、グンバイトンボなど、合計 46 種。

絶滅危惧Ⅱ類 Vulnerable (VU)

加茂地区において絶滅の危険が増大している種



ニホンイシガメ



マツカサガイ

他に植物はキンラン、ヘビノボラズなど、動物はタマシギ、オオサンショウウオ、ネコギギ、タガメなど、合計 59 種。

準絶滅危惧 Near Threatened (NT)

加茂地区において存続基盤が脆弱な種



ムササビ



モクスガニ

他に植物はブナ、ナンバンギセルなど、動物はヤマドリ、アカハライモリ、ヌマムツ、クロゲンゴロウなど、合計 91 種。

情報不足 Data Deficient (DD)

加茂地区において絶滅のおそれがあると考えられるが、カテゴリーを判定するだけの情報が不足している種



ハコネサンショウウオ



ヨツボシトンボ

他に植物はオナモミなど、動物はホンドモモンガなど、合計 31 種。

Ⅳ. 外来種

加茂地域では307種の外来種が確認され、そのすべてをリストアップしました。その中には在来生態系や農林水産業などに大きな影響をあたえる種も多いため、外来種の分布拡大を防いだり、場合によっては駆除するなどの対策が必要です。

分類群	確認種数	在来種数	外来種数	確認種数に対する％
シダ植物	208	206	2	1.0
種子植物	1,446	1,210	236	16.3
哺乳類	37	32	5	13.5
鳥類	202	199	3	1.5
爬虫類	16	14	2	12.5
両生類	19	18	1	5.3
魚類	54	42	12	22.2
昆虫類	3,342	3,301	41	1.2
淡水貝類	18	14	4	22.2
十脚甲殻類	5	4	1	20.0
合 計	5,347	5,040	307	5.7

加茂地区で確認された主な外来種

特定外来生物
緊急対策外来種



オオキンケイギク

重点対策外来種



オランダガラシ

産業管理外来種



ハリエンジュ

地区要注意



マルバルコウ



ヒサウチソウ



アライグマ



ハクビシン



ソウシチョウ



ミシシippiaアカミミガメ



ウシガエル



ニジマス



オオクチバス



オヤニラミ



スクミリンゴガイ



アメリカザリガニ



ホソオチョウ

- 特定外来生物は外来生物法によって飼育・栽培や生体の持ち運びが禁止されています。
- 緊急対策外来種・重点対策外来種・その他の総合対策外来種・産業管理外来種は国の生態系被害防止外来種リストにおけるカテゴリーであり、防除や管理のための対策が必要とされています。
- 植物については、加茂地区で特に注意を要する外来種を「地区要注意」としています。

イラスト：渡辺 崇



守りたい 加茂の豊かな自然

守りたい加茂の豊かな自然 編集委員会

概 要 版

2019. 3. 31



I. 加茂の自然

美濃加茂市と加茂郡 7 町村の自然について、平成 27（2015）年度から生物多様性地域連携促進事業として自然環境調査を行ってきました。ここでは多くの人の協力を得ておこなった調査の結果をまとめました。

1. 大地と大気

加茂地域は多様な地形・地質から成り立っています。坂祝町や上麻生地区に連なる山は硬いチャートの組織地形、加茂地域の東部は美濃高原（美濃山地）と呼ばれる準平原、美濃加茂盆地は木曽川の河岸段丘となっており、高位段丘、中位段丘、低位段丘があります。

こうした地形を構成する地質として、古生代から中生代に海底で堆積した美濃帯堆積岩類、恵那山から飛騨古川へと広がる濃飛流紋岩類や花崗岩類、新生代中新世に堆積した瑞浪層群、木曽川の河岸段丘を構成する礫層などがあります。

堆積岩類のチャートは日本ラインの景観を作り出し、濃飛流紋岩類や花崗岩類は木曽川や飛騨川に侵食されて峡谷や渓谷を形成してきました。瑞浪層群は哺乳類や魚類などの動物化石を含んでいることで知られています。

美濃加茂盆地と美濃山地は気候がやや異なりますが、いずれの地域でも年平均気温は高くなりつつあります。ゲリラ豪雨による土砂災害、ダウンバースト（巨大積乱雲に伴う猛烈な下降気流）や竜巻による建物被害などが生じたこともあります。

2. 動植物

(1) 植物

加茂地域で確認された維管束植物は 177 科 1,654 種（シダ植物 26 科 208 種、種子植物 151 科 1,446 種）に上ります。

岐阜県は南北につながる日本列島の中央に位置するため、加茂地域はさまざまな北方系植物の分布南限となるとともに、川沿いには暖帯性の植物が分布します。特に、木曽川と飛騨川に流れ込む溪流は多様なシダの絶好の生育地になっています。砂礫性の湿地にはシデコブシやハナノキなどの東海丘陵要素と呼ばれる植物群も見られます。



美濃加茂盆地の低位段丘



日本ライン



コモチシダ



マルバンキ



キジョラン



ヘビノボラズ

(2) 哺乳類

加茂地域では 19 科 37 種が確認され、県内でも生息地が少ないモモジロコウモリの集団が見つかっています。数十年前は神社仏閣に残された大木の洞にムササビが多く生息していましたが、そうした木が伐採されることでムササビの数は減少しています。一方、カモシカ、ニホンジカ、イノシシ、アライグマ、ハクビシンなどが増加しています。



モモジロコウモリ

(3) 鳥類

加茂地域では 51 科 202 種が確認されています。里山や山林地帯にはそれぞれの環境に適応した鳥が生息し、木曽川や飛騨川には水辺を好む鳥が生息しています。稀な記録としてイヌワシやコノハズクなどの記録があります。近年減少している鳥も多いのですが、カワガラスは橋げたなどの人工物を利用して繁殖して数を増やしているようです。



カワガラス

(4) 爬虫類

加茂地域では 10 科 16 種が確認されています。ニホンイシガメやニホンスッポン、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビのような在来のカメやトカゲが身近な環境で見られます。ヘビは 8 種が生息しており、多様な自然環境が残されていることで、水田周辺のシマヘビなどの他、山地にはシロマダラやタカチホヘビなどの珍しいヘビ類を見ることができます。



シマヘビ

(5) 両生類

加茂地域では 8 科 19 種が確認されています。外来種はウシガエル 1 種だけで、在来種としてオオサンショウウオやヒダサンショウウオ、アカハライモリなどの有尾類と、さまざまなカエル類がいます。しかし、在来種は環境の変化によって数を減らしている種が多く、特に水田と山林の両方を必要とするニホンアカガエルやアズマヒキガエルは大きく数を減らしています。



ヒダサンショウウオ

(6) 魚類

加茂地域では 17 科 54 種が確認されています。河川上流域から中流域の流水に生息する種が多く、カワムツとカワヨシノボリは加茂地域の全ての市町村で確認されています。また、アジメドジョウも多く、天然記念物のネコギギが生息する川も残されています。しかし、水田地帯や溜池などの湿地や止水を好むカワバタモロコやミナミメダカ、トウカイヨシノボリなどは危機的状況にあります。



トウカイヨシノボリ

(7) 昆虫類

加茂地域では 315 科 3,344 種が記録されていますが、今後の調査でまだまだ種数は増加すると考えられます。平地から中山帯にかけて生息する昆虫が分布しており、他地域では減少しているタガメやヒメタイコウチが比較的多く残っています。また、地域内にミカワオサムシの 3 亜種（基亜種、岐阜県中北部亜種、岐阜県南部亜種）が分布するといった興味深い特徴があります。



ミカワオサムシ岐阜県南部亜種

(8) 十脚甲殻類

十脚甲殻類とはエビ・カニの仲間であり、加茂地域からは 5 科 5 種が確認されています。山地にはサワガニが広く分布しており、木曽川などには海から遡上したモクスガニも生息しています。アメリカザリガニは外来種として美濃加茂盆地に広く定着していますが、山間地の水田にはまだ侵入していないようです。



サワガニ

(9) 淡水貝類

川や池、水路の淡水貝類は 7 科 18 種が確認されています。イシガイ科などの二枚貝は圃場整備などによる水路のコンクリート化で著しく数を減らしています。イシガイ科の貝類はタナゴ類やカワヒガイのような淡水魚が卵を産みつけるために必要なので、こうした貝類の減少は淡水魚の減少にもつながります。



ヌマガイ

II. 貴重な地形・地質

加茂地域には特徴的な地形や地質が多数見られます。しかし、貴重な地形や地質は、時間の経過によって風化するだけでなく、開発や興味本位の採掘などによっても破壊されていくため、地形・地質のレッドリストとして「保護・保存する地形・地質」を選定しました。

保護・保存する地形・地質

地形 ①飛水峡 ②飛水峡の甌穴群 ③日本ライン ④日本ラインの奇岩群 ⑤北山の棚田
地質 ①上麻生・日本最古の片麻岩礫 ②坂祝のイジェクタ層 ③三和町一反田鉱山跡 ④山之上町の桂化木 ⑤鹿塩の重ね岩 ⑥蜂屋町広橋の火山角礫岩層 ⑦蜂屋層の動物化石 ⑧中村層の小型哺乳動物化石群 ⑨八百津町錦織の木曽川泥流堆積層と樹幹化石 ⑩川合町箱井の湧水



飛水峡